



39+

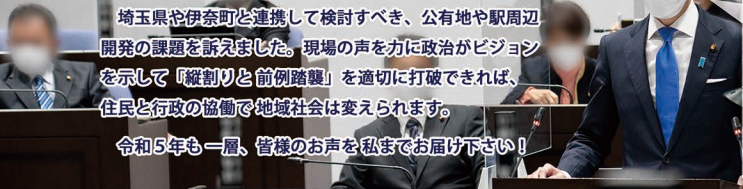
# 尾花あきひと

※ 公選法により 私からの年末年始のご挨拶状等は ご遠慮させていただきます。

▼ 日々の活動をSNSで発信中です



## 市議会 最後の一般質問に登壇！



埼玉県や伊奈町と連携して検討すべき、公有地や駅周辺開発の課題を訴えました。現場の声を力に政治がビジョンを示して「縦割り」と「前例踏襲」を適切に打破できれば、住民と行政の協働で地域社会は変わります。

令和5年も一層、皆様のお声を私までお届け下さい！

【今回の主なテーマ】

- 1 エリア別 土地利用方針の転換を
- 2 水上公園周辺の今後（県に強く主張を）
- 3 物流倉庫「GLP上尾」周辺整備
- 4 防災無線の補完・改善
- 5 地域社会から民主主義を

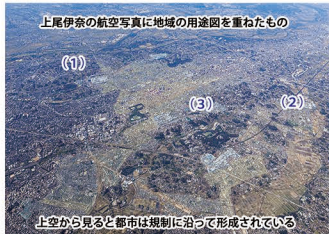


公式サイト

### ① エリア別 土地利用方針の転換を (1)～(3)

昨年、多くの市町で、昭和期に策定した土地活用の規制と現状にズレが生じ、見直しの動きが出始めています。

上尾市もS40年代の区域・用途指定から長期が経過しており、私は「住民の生活圏や交通網の変化、耕作放棄地の課題等を整理し、現場の声を聞きながらのエリア(1)～(3)ごとの土地規制と開発の再検討」を提案しました。



上尾伊奈の航空写真に地域の用途圏を重ねたもの

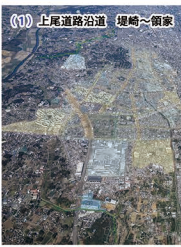
上空から見ると都市は規制に沿って形成されている

#### (1) 西側 上尾道路沿道の企業誘致を

国の「上尾への首都高延長」計画をふまえ、将来堤崎に新設予定のインターチェンジ周辺に市として企業誘致を狙うべきと考えますが、現状は農用以外が禁止された土地が多く上尾に進出したい企業を逃している為、市に「土地転用の促進」を提案。

市役所内でも「誘致は重要であり土地転用が必要」「農用地が多く転用は困難」と部署ごとの見解が矛盾している点を指摘したところ、市は「調整会議で協議中」と答弁しましたが この会議が「H30年の設置以降 1度しか開催されていなかった事」が明らかとなりました。

各自治体で誘致合戦が激化している中 本市は積極性不足ですが、歴史的には「戦前の軍需産業誘致や、S30年代には優遇制度を設け多くの企業誘致を成功させた」時期もありました。私から「歴史も振り返り 庁内の縦割りを超え 都心からのアクセスを活かした具体的な誘致体制を」と要望し、市は「今年度中に調整会議を開催する」と答弁しました。今後の状況を注視してまいります。

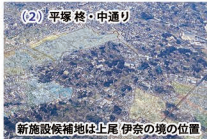


(1) 上尾道路沿道 堤崎～領家  
そもそも十分な面積の「種地」が尽き企業ニーズに応えられない

### (2) 東側 伊奈との連携 新環境センター予定地 周辺開発

上尾 伊奈の境で共同建設予定の新ゴミ処理場周辺では住民から「処理場だけの建設でなく周辺の土地規制を見直し 産業エリアとして開発を」と請願があり 議会全会派の賛成で採択に。しかし市側は「他地区で産業系土地利用検討中の区画があり その終了後に順番に検討したい」「現在は農業振興地としての位置付け」と後ろ向きな回答が続いていました。

「いつから検討可能か」問うと「R13年以降」と答弁が出た為、私は「市が新施設稼働時期をR15年としている為 それでは間に合わない」と指摘。実は伊奈町政も 上尾と連携し産業系開発したい意向を示しているに耳にしたため 状況を市に質問したところ、市は「伊奈と協議は特に無い」と答弁しましたが、伊奈町政は「確かに診診している」と述べています。市が言う「農業振興」についても 地区に実際に何をしてきたか確認すると「農業投資は未実施」との答弁でした。土地利用の許認可権を持つ県や国は 市に対して開発エリアの優先順位を付けさせようとするが、新処理場候補地決定に伴う状況変化を根拠に、周辺土地の柔軟な活用意志を 地元市から 臆する事なく 県や国に訴えていかなければ物事は動きません。何よりも、処理場建設にあたっては 地元の理解と協力が不可欠なため、地域や伊奈町の意向丁寧に丁寧に聞きながら 柔軟な施策展開の必要性を 市に対し強く申し入れました。



(2) 平塚 桜・中通り

新施設稼働地は上尾 伊奈の境の位置

### (3) 上尾駅周辺 アリコペールはじめ再々開発の可能性

昭和期の上尾駅東西口再開発から40年以上経過した現状で 市が可能な再々開発手法を調査しておくべきと提案したところ、市は「権利者による再整備検討が動く場合には効果的な手法の協議等、必要な支援を検討したい」と前向きな姿勢を述べました。私自身も今後 全国の手法を調査・提案してまいります。



S58年上尾駅周辺写真

当時の再開発事業は建設大臣表彰を受賞

一般質問は裏面に続きます

## 「旧統一教会問題」への見解 真に保守政治家ならば 反日団体とは当然 関係の断絶を！

自民党 党改革

自民党は「旧統一教会・関連団体と一切関係を持たない方針」を「地方議員や地域支部に徹底する」と発表。まず前提として私尾花あきひとは これら団体とはこれまで一切関わり無く、当然今後も同様の方針です。私は秋時点で「①政界との癒着や霊感商法被害の実態調査 ②被害者と2世相談窓口設置と救済を求める意見書」に署名し、市議会として会派を超えて可決。国・政府に提出し 適切な対応を強く要望してきました。

また「教会の布教が司法の場で違法と認定された事例」を市に示し 実態調査と相談体制の実施を要望。今後自治体は 成立した救済新法を注視し 2世の虐待被害者救済策を見相と連携し確立していく事となります。そもそも、真に保守政治家であれば、国益に反する「反日思想を教義に持つ団体」と関係を断つべきは当然の話です。政府は 解散命令の請求まで視野に入れ、徹底した調査を進めるべきです。



被害状況や対応を市にもヒアリング



## 2 水上公園 周辺の今後

50年の歴史を歩んだ水上公園が閉園し、ここを含む「県立運動公園全体」の再整備について地元市として県への強い要望が必要です。

県の「50mプール&スポーツ科学拠点施設」建設場所の選定当初は立地条件で上尾が優位との事でしたが、一転して施設を別々に建設する案が浮上。各市が誘致を狙ったプールは最終的に知事地元でもある川口市への整備で決定。その整備は順調に進んでいます。一方、上尾市側に「残された」科学拠点施設(アスリートの競技力向上等を目的とする分析/練習/育成施設)は細部も不明確なままでした。その後の県の動きを市に質問したところ「独立採算式で運営する事業者を募集中」と答弁があり、つまりフタが開いてみれば「県の支出が極めて少ない方式」が示されたというのが、現在の状況です。

この地域は「現状 自民党県議不在エリアゆえに県に要望が届きにくい状況」との声も聞かれますが、いずれにせよ地元市の立場としては 相応の県費の捻出を要求すべきです。また 分割案が浮上した経緯は疑問ですが、いま認識すべきは「これだけ広大で平坦な県有地は国内でも貴重」である点だと思います。

私は市に「県に広く事業者選定するための十分な期間要望、市の協力条件等を明示し、水上公園の後継施設として働かない用地活用に向けて」地元市民にとって有益かどうかの観点で県と渡り合っていくべき」と要望しました。

## 3 物流倉庫 'GLP上尾' 周辺整備

(今できる渋滞緩和策を提案)

横浜ゴム跡地に、日本GLP(株)が建設中の物流倉庫周辺について住民から渋滞悪化の心配の声が多く届く為、私は以前の質問で「民間相手への介入には限界があっても市として可能な対応を検討すべき」と要望し、今回 その後の状況を確認したところ、市の答弁は「◆渋滞対策として県に対して現在の渋滞の主要因である『上尾陸橋交差点(水上公園前から川越へ抜ける東西道と旧中山道の交差点箇所)に右折帯新設を要望し』◆県と共に事業者に交渉した結果、車両出入口が広く確保され 工事の前後は車両の出入りを左折イン右折アウトに限る形とさせた ◆地元還元要素として 旧中山道沿いの敷地に“住民憩いのスペース”を設置予定 と返答がきた」との事でした。



併せて私は「県による右折帯設置が遅々として進まない為、市から可能なアプローチとして『右折する車両が交差点の中心まで進まない事によって発生する後続車の渋滞』をせめて緩和するよう、県に打診しひどい時間帯は警察官を配置して車両誘導を実施しては」と提案し 市は「依頼する」と答弁しました。

## 4 防災無線の補完・改善 (新サービスを提案)

防災無線が聞こえにくい問題の改善案の1つとして 私から他市事例「電話番号を事前登録しておくと、放送した内容を行政側から市民の固定電話等に発信するサービス」と「市公式SNSを通じて配信するサービス」の導入を提案したところ 市から「新年度の予算化に向け検討したい」と回答を得ました。

## 5 地域社会から民主主義を

若手経営者仲間と共に上平北小で「主権者意識の授業」を実施。社会課題の解決方法を児童に話し合ってもらい 投票する内容でした。

政治的中立性を確保した上で「主権者として地域や社会を考える」場作りが、いま重要です。教育長は「今回の試みは児童にとって良い機会になった。今後も場作りを進める」と述べられました。

かつて若者には「政治と距離を置く事がスマート」という空気も存在しましたが、現代は民間にできる事は民間が行いいつも 政治分野の判断が最適に行われないと 社会が保たない時代です。「各問題の起点と現在はどこか」を一人ひとりが把握し共有する事が、人が政治を自らの物語として感じ、自由な社会を未来まで繋ぐ為に必要なです。多くの場合 人が実際に政治に関心を持つきっかけは、子育て・介護等「ある日突然、福祉や繋がりが必要になる」瞬間であり 私たち 政治に携わる人間は、選挙の参加促進の訴えだけでなく 日々の生活の現場に具体的変化を生み 主権者が政治や民主主義に「手触り感」を感じる場を増やさねばなりません。私は皆様から頂いた市議としての貴重な経験を一生の糧とし、今後も地域で人々と意見を交え、取り組みを進めていく決意です。



## 尾花あきひと プロフィール

### チェンジ!

埼玉の未来を拓く。

1983年 上尾生まれ (39歳)  
明治大学 政治経済学部 卒  
家族: 妻 長女 父母 弟 愛犬 愛猫2匹  
略歴: ドラマ 映画 助監督(共同テレビ等勤務)  
大和商事(株) 常務取締役  
公職と地域活動歴: 自由民主党 上尾支部長、埼玉県第6区青年局長  
上尾市議会 総務常任委員長、議会改革特別委員長、予算特別委員長  
上尾・伊奈広域行政協議会 委員 上尾・桶川・伊奈衛生組合 議員  
明治大学校友会 埼玉県東部支部(幹事)(公社)埼玉中央青年会議所 常任理事  
上尾商工会議所青年部 理事 伊奈町商工会青年部  
上尾伊奈防火安全協会 理事 上尾仲町商店会 理事  
日本防災士機構 防災士

地域活動と近況



尾花あきひと 検索

## 学校周辺道 大規模改修と水道管耐震化

以前、旧中山道押し信号～上尾小周辺の道路下の水道管の耐震管への入れ替えを実施してもらい、続いて今年度の工事で上尾駅周辺東側の生活道も耐震管への入れ替えを完了しました。工事後は、PTAをはじめ地域から頂いた要望「大規模な道路形成と路面表記の塗り直し」も実施してもらい、登下校の危険箇所の一部は、路面表記内容も変更。残る部分は新年度初期に実施するよう予算要求中です。また、ここに限らず市内全域で災害時の避難所となる学校を中心に「耐震水道管への早期入れ替え」も要望しました。

